



平成26年度、創立20周年!

トピックス2013の発行にあたり
— 平成25年度活動記録 —

学長 長谷川 彰

新潟工科大学は平成7年4月、県内製造業を中心とする多くの企業の熱い思いによって設立されました。その後、大学院の開設（平成11年度博士前期（修士）課程、同13年度博士後期課程）や施設、設備の拡充を経て現在に至っております。卒業者の数は平成26年3月までに3,700人を超え、ものづくりの知識と技術を身に付けた人材を企業に輩出するという使命を果たしてまいりました。また、教育研究においても弛まぬ努力により、今日まで多くの実績と成果を残してきました。本誌は、平成25年度の学生、教職員の主な活動をまとめた、新潟工科大学の1年間を振り返る一冊です。

さて、本学は平成26年度、開学20年の節目を迎えました。本学ではこれを「第二の開学」と位置づけ、将来を見据えた新しい大学づくりに取り組んでいます。

まず、本学では平成27年4月から、現在の「工学部4学科」を「工学部工学科1学科」とし、新たに3学系（2年次）と8コース（3年次以降）の設置を予定しています。1学科とすることで、多くの分野の学問を学ぶことができるようになり、またコース制とすることで学生自らが段階を踏みながら、学問への興味と自らの適性、将来を考えて専門分野を選択していくことが可能となります（詳細2頁参照）。なお、在学生には今後整備する施設やICT機器等の導入をはじめとして、これまで以上に企業から求められる技術者として育成することを目的に、きめ細かく教育、指導いたします。

施設設備の整備については、学生食堂や図書館など福利厚生施設を改修し、学生が講義の合間や放課後も学内で快適に勉学や課外活動に取り組めるよう、学生目線でのリフォームを行います。このほか、例年実施している行事を20周年記念事業に含めて、規模や内容を充実して実施いたします。

さらに、本学の強みである産学連携をいっそう強化し、長期インターンシップや海外インターンシップの実施を目指します。企業に対しては平成25年度に続き、高度シミュレーションシステムを活用した社会人向けセミナーなどを開催し、地域産業の活性化に寄与したいと考えています。

以上を踏まえ、今後も本学は地元柏崎・刈羽をはじめ、新潟県及び隣接する県外地域の拠点大学としての自信と誇りを持って「最高の人材育成で社会に貢献する大学」を目指してまいります。

目次 / INDEX

創立20周年	……P2
教育	……P3
学生活動	……P6
地域貢献	……P9
就職支援	……P10
同窓会、研究	……P11
産学交流	……P12

地域とともに20年 —新潟工科大学が変わる—

本学では創立20年を契機として、教育研究環境のいっそうの充実に努め、地域に求められる大学としてこれからも前進を続けていきます。



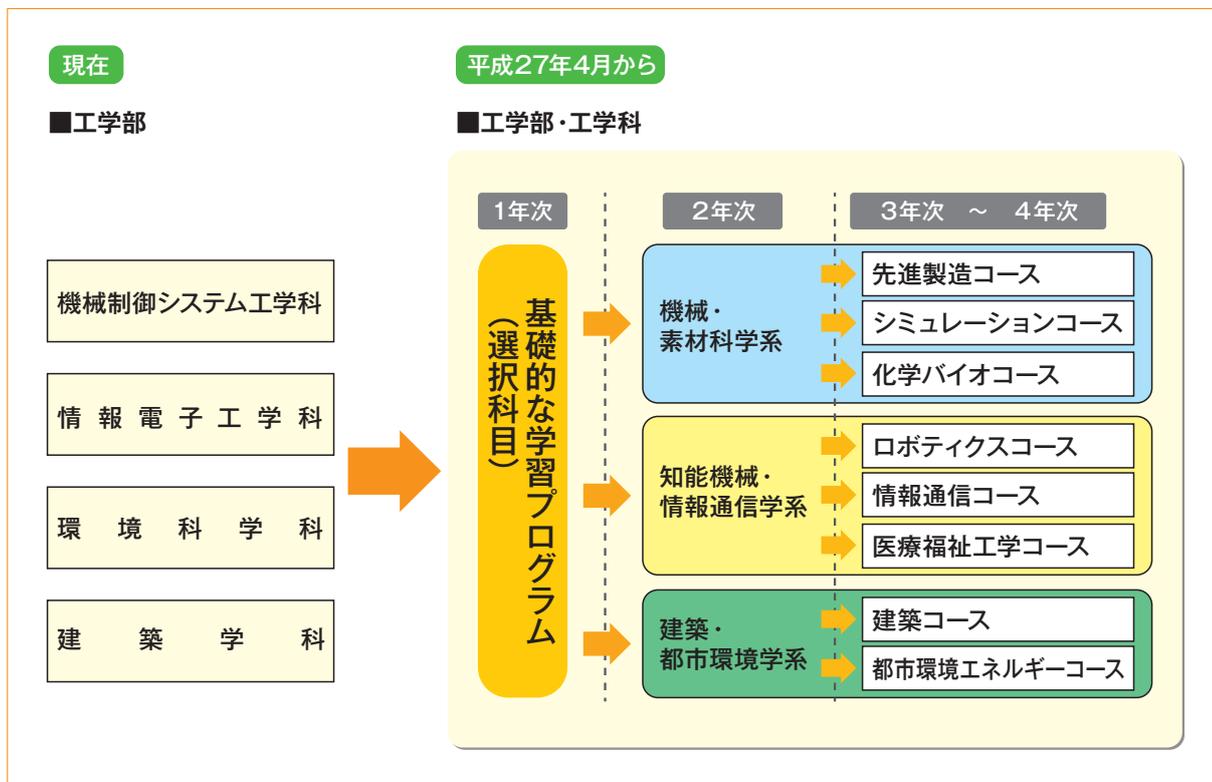
創立20周年における主な取組

学部学科を改組

本学は開学以来、一部の学科改編や定員変更などを経て、4学科による工学教育を進めてきましたが、時代の流れや多様化する社会のニーズに応えるために、平成27年4月、全面的な改組を実施することとしました。

- ・現在の4学科を1学科（工学科）に改組。工学分野を広く学べる。
- ・学生が入学後に選択する学系・コースを設置。絞り込んだ専門分野を深く学べる。

※現在構想中であり、平成26年に手続きを進める予定です。



改組に関する詳細資料の請求は入試広報課まで。TEL 0120-8188-40 E-mail nyuushi@adm.niit.ac.jp

ロボカップレスキュー実機リーグ

5月4日(日)～6日(火) 世界大会の前哨戦となるレスキューロボットの日本大会を本学で開催。

工科大祭

6月21日(土)、22日(日) 今年の工科大祭は2日間の拡大版。

大学開放／文化講演会／芸能人ライブ／卒業生ホームカミングデイ／同窓会総会／オープンキャンパス／青少年のための科学の祭典などを予定しています。

学生キャンパスアイデアコンペ

大学生活をさらに充実させるためのアイデアを学内コンペで募集します。

施設改修

上記学生キャンパスアイデアコンペの結果を考慮しながら、快適なキャンパスライフへ向け、食堂や図書館などの福利厚生施設を学生目線で改装します。

充実のICT教育環境

平成25年度にスタートした第2期中期計画では「デジタル教育時代に相応しい機器の完備」を課題としています。

本学では平成25年春、ICT (Information and Communication Technology=情報通信技術) 教育を実践するため、高性能サーバ、クライアント (高性能パソコン)、シミュレーションソフトを備えた高度シミュレーション実習室を整備しました。さらに、3Dプリンタ、3Dスキャナ、赤外線サーモグラフィカメラなどを新たに導入し、ものづくりの可能性が飛躍的に広がりました。

また、文部科学省の「ICT活用推進事業」の採択を受け、すべての講義室に無線LAN接続可能な電子黒板機能付き超短焦点プロジェクタを導入するなど、最新のICT設備を導入しました。

これらを通じ、ICTツールへの習熟を促し、いっそうのデジタル教材の活用や主体的に考える力を養成し、創造力、挑戦力、コミュニケーション力、プロジェクト遂行能力を備えた人材を育成します。

高度シミュレーション実習室

高精度なシミュレーションシステムにより、ものづくりの高効率・高品質・高信頼化に貢献できる人材を育成します。導入したシミュレーションソフト (Abaqus、ANSYS) は自動車、航空、防衛、化学、家電など様々な産業の先進企業で使用されており、先進性と信頼性を兼ね備えた、高度なシミュレーションが可能です。また、シミュレーションを活用するための基礎学力を育成するため、オープンエデュケーションシステムとしてタブレット端末等を導入し、主体的に学べる環境を整えるなど、教育用としては国内大学において類を見ない、最新鋭の設備となっています。

同実習室は通常の講義で使用するほか、地域の技術者向けにシミュレーションの普及を目指したセミナーを、平成26年度までの2年間にわたり開講しています。



高度シミュレーション実習室

技術者を対象としたセミナー
(11月29日)

3Dプリンタ、3Dスキャナ

印刷するような感覚で複雑な立体物を造形できる3Dプリンタを積極的に導入し、授業や研究で活用しています。例えば機械制御システム工学科では、1年次の基礎ゼミで全員が体験するほか、4年次の卒業研究で使用する装置の部品作りなどに利用しています。

3Dスキャナ (3次元デジタイザ) は、接触することなく対象物をすばやくモデリングする優れたもので、人体や顔、製品の形状検査、文化財遺物の3Dモデル化に最適です。これらの最新機器は企業からの関心も高く、柏崎はもとより県内各地から講習会の依頼が本学に寄せられています。



3Dプリンタ



完成品サンプル



3Dスキャナ

柏崎ビジネスプランコンテスト

柏崎iT・ソフトウェア産業協会 (KSK) 主催による、第1回柏崎ビジネスプランコンテスト2013が10月10日 (木)、柏崎市文化会館アルフォーレ・マルチホールで行われ、本学から情報電子工学科4年次生の4組・7人が発表しました。

IT技術を活用したビジネスプランとして、学生らしい自由な発想による創造性や意欲あふれる提案がされました。審査の結果、インターネットを使用した農業のオーナー制度サービスを提案した武田俊介さんが最優秀賞を受賞。利用者が野菜を選びオーナー登録し、収穫後に届けられるシステムで、利用者間の物々交換にも言及しました。審査では柏崎市での実現性や、物々交換の仕組み等が評価されました。



発表する学生と大勢の聴衆



表彰される武田俊介さん (右)

産学協働による学生の社会的・職業的自立を促す教育

本学は平成24年度文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の採択を受け、26年度までの3年間、新潟県内外の18大学と連携しながら、学生の社会的・職業的自立を図るための事業に取り組んでいます。下記のとおり専門教育、教養教育、キャリア教育を実践型カリキュラムで体系的に行い、技術者として就業するために必要な「専門力」と「人間力」を育成します。

実践型カリキュラム (工学プロジェクト、PBL 実習など)

工学の専門教育

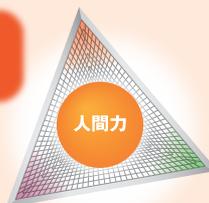
教養教育

キャリア教育

新潟工科大学が育成を目指すのは、
専門力だけでなく
人間力をも身に付け、
実践的に活躍できる
技術者です。

挑戦力
チャレンジ

コミュニケーション力
チームワーク



創造力
シンキング

工学プロジェクト(学内企業実習)

学生が1日社員として、企業が抱える現場の課題に社員の立場になってグループで解決に取り組みます。平成25年度は9月12日(木)に4社を迎え、前年を上回る61人の学生が参加しました。今回は卒業生も講師に加わり、企業の先輩の立場で指導いただきました。

学生は各社3チームに分かれ、まとめた成果をチームごとに発表。各学生の人間力育成につながっています。

参加企業・テーマ

- (1) 佐藤食品工業株式会社
「新しいニーズの包装餅の提案」
- (2) 株式会社北村製作所
「どんなアルミバン(配送車)が使い易いかな? —配達屋さんになったつもりで考える—」
- (3) 中越クリーンサービス株式会社
「未来の福祉用具考察について」
- (4) 株式会社ネクスコ・エンジニアリング新潟
「次世代の高速道路について」



企業の講師からヒントを得る



学生による発表

PBL実習 PBL…Project Based Learning (課題解決型学習)

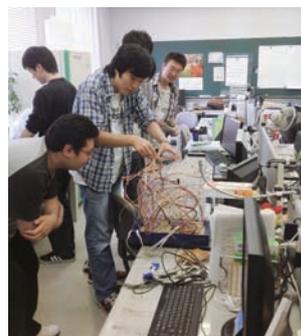
教員の課題に対して学生がチームを組み、主体的・実践的に課題解決を目指します。これにより、挑戦力・創造力・コミュニケーション力等を育成します。

平成25年度は以下の10テーマに60人が取り組み、2月25日(火)に成果発表会を行いました。

- ① ETソフトウェアデザインロボットコンテスト/
(ETロボコン) 2013への出場
- ② 災害時の活用を目的とした小型水車の開発
- ③ 模型を使った柏崎市中部の都市デザインの提案
- ④ 地域活性化企画の立案
- ⑤ 学生フォーミュラEVのカウリングの空力最適設計
- ⑥ 三次元ライフゲームを用いたLED電飾の製作
- ⑦ みる・つくる・批評する・伝える、
建築ガイドmap Niigataプロジェクト
- ⑧ C言語学習サイトの構築
- ⑨ 緑のカーテンによる学内の温熱環境の改善と
学生への環境意識の啓発
- ⑩ 紙飛行機の記録にチャレンジ



左記②小型水車の設置



左記⑥LED電飾の製作

新潟県内の産業界と太い絆で結ばれている本学では、左記のほかにも企業と連携した科目も開講しています。

産業と大学

企業の第一線で活躍する経営者や技術者を講師として、創業から発展に至る経緯、企業の社会的役割、技術的な特色等について講演いただきます。勉学の意欲を高めるとともに、人生観や経営哲学を学びます。

職業実習

3年次の夏期休業中に約2週間、企業や官公庁などでインターンシップを体験します。毎年ほぼ半数の学生が履修し、働くことの意義やものづくりへの熱意を学びます。

企業との連携は講義室の中だけには留まりません。以下は、企業とのコラボが発展した一例です。学生はこれらの活動を通じ実践力を育てています。

学生が考案した雑煮が実現

平成25年度の職業実習で3人の学生を受け入れていただいた佐藤食品工業株式会社(新潟市東区、新潟工科大学産学交流会会長)では、工学プロジェクトを基本とした“課題解決型インターンシップ”をご提案いただきました。

3人は新潟大学の学生や同社の若手社員と混合チーム(2チーム)を編成し、今年1月に新発田市で開催された第十回城下町しばた全国雑煮合戦に出品する雑煮を考案しました。その後、学生の提案をベースに『炙・豚巻き鶏つくね雑煮』が完成、雑煮合戦当日、同社の店頭で販売されました。餅との相性も良く、用意した450食が完売する盛況でした。

参加した学生は「メニューひとつ考えるのも大変なことがわかった。自分たちのアイデアがベースになった雑煮が出品されてうれしい」と自らの成果を喜んでいました。



職業実習のひとつコマ



しばた雑煮合戦



炙・豚巻き鶏つくね雑煮

日本酒のラベルをコンペで決定

建築学科では市内の酒造会社と連携し、新商品のラベルをデザインするコンペを実施。投票で選ばれた作品が商品化されることになりました。

このコンペは昨年、柏崎信用金庫が市内高柳町の石塚酒造と本学を仲介して実現したものです。

作品は「工学基礎ゼミⅡ」の時間を使って制作され、1年次生を中心に合計20作品が応募されました。1月24日(金)の学内での一次審査を経て、公開コンペとなった二次審査は2月23日(日)、同町の雪まつり会場での一般来場者による投票と、じょんのび村で行われた選考委員へのプレゼンを総合して入賞者を決定しました。

選考の結果、1年の内山由貴さんの作品「きつね参り」がグランプリに輝きました。内山さんは狐の夜祭りをイメージして、手で作った狐の影を切り絵風にしました。このデザインをもとにしたお酒は、6月下旬を目途に1,000本が商品化される予定です。



グランプリ作品



公開コンペの様子



内山さん(左)にトロフィーを授与

まちかど研究室(通称『まち研』)

柏崎市との連携推進事業の一環で、本学と新潟産業大学の学生が、柏崎駅前の空き店舗を利用した「まちかど研究室」を拠点に、様々なまちづくり活動を行っています。平成25年度も建築学科・長聡子准教授の研究室の学生を中心に、中心市街地を活性化するための活動に精力的に取り組みました。2年目を終え、商店街や市民との交流が増え、活動も多彩になりました。

駄菓子屋プロジェクト

殺風景だった店舗を学生たちの手で駄菓子屋にリフォーム。設計、施工は本学、駄菓子の仕入れと商品管理は新潟産業大学の学生が、それぞれの強みを活かして作業にあたりました。

地域の子どもたちが気軽に立ち寄れることをコンセプトに、床をすべて板張りにして暖かさを醸し出すとともに、長時間でも過ごせるように小上がりを設けました。

また、まち研の駄菓子屋には市内で開催されるイベントへの出展依頼が相次ぎ、どの会場でも来場者の人気を集めていました。



駄菓子屋に生まれ変わったまち研



子どもたちもゆったり過ごせる小上がり

柏崎最高プロジェクト

昨年度に続き、柏崎の最高と思う場所やものを写真、絵画、川柳等の作品で募集し、これまでで最多の98作品が寄せられました。

審査の結果、最優秀賞の柏崎市長賞には、市内の主婦が描いた「柏崎♡春夏秋冬withえちゴン!」が、新潟工科大学賞には、市内の高校生が撮影した写真「豊作」が選ばれました。

また、新たな試みとして、近隣の病院や複数の公共施設で応募作品の展示会を開催し、市民の方々にご覧いただきました。



作品審査会(9月20日)



新潟工科大学賞の表彰(10月13日)

インタビュープロジェクト

まち研が位置する商店街をより深く知るため、店主の方々にインタビューを行いました。情報交換を重ねるうちに信頼関係も構築され、かつて商店街で実施されていた七夕イベントを復活させることができました。



七夕でのキャンドル点灯(7月7日)

柏崎小学校ワークショップ

春先に市内柏崎小学校からの依頼を受け、6年生の総合学習でまちづくりに関するワークショップを行いました。

企画から授業運営までをすべて学生たちでつくり上げ、2クラス約70人の児童を対象に「まちづくりで自分たちのできそうなこと」について、アドバイスしながらアイデアを引き出していました。

1年間本学のリーダーを務めた、大橋尚弥さん(平成26年3月建築学科卒業)は「多くの人と繋がる楽しさを感じる一方で、理想と現実のギャップや自分たちの力不足など辛いこともあったが、どれも大きな自信となっている。後輩にはより多くの出会いや場面に直面して、たくさん学んでほしい」とコメントしました。



まち研のメンバー

たる仁和賀に初参加～ぎおん柏崎まつり

7月25日(木)、本学では初めてとなる「たる仁和賀」に、新潟産業大学との合同チームとして参加しました。長谷川学長始め、両大学の学生、教職員64人がそれぞれ揃いの法被をまとい、勇壮に商店街を闊歩しました。沿道からも熱い声援と激励をいただき、学生たちは熱い夏の夜を過ごしました。



第18回工科大祭

6月1日(土)に「第18回工科大祭」を開催、2,800人が来場する大盛況となりました。模擬店には、新潟産業大学、長岡大学の学生も出店してくれました。また、学生たちが4学科の特性を生かした作品展示や講習会などを実施したほか、ラテンジャズバンド「MINT」の演奏、大ピンゴ大会、スタンプラリー、ゲーム大会なども行われました。フィナーレは「バイきんぐ」「バックスクリーン」「ウメ」の3組によるお笑いライブで盛り上がりました。



学友会主催スポーツ大会

学生がさまざまなチームで参加できるスポーツ大会を、毎年2回開催しています。6月29日(土)にバレーボール、11月16日(土)にフットサルが行われ、いずれも熱い戦いが繰り広げられました。



環境推進学生会の活動

平成25年度はメンバーが増え、新たに海岸清掃やアサガオとヘチマによる緑のカーテンを植栽しました。PBL実習を兼ねた緑のカーテンプロジェクトでは、短期間で勢いよく成長した天然のカーテンにより、室内温度が1.6℃下がるという検証結果が得られました。



海岸清掃(5月26日)



緑のカーテンで取材を受ける(8月9日)

これら学生の活動を含め、本学のエコアクション21を中心とした環境活動が認められ、新潟県が主催する「第18回新潟県環境賞(一般の部)」を受賞しました。表彰式は、11月16日(土)に新潟市の朱鷺メッセで行われ、環境管理副責任者の福崎紀夫教授と環境推進学生会の3人が出席しました。



高速道路バス停での清掃(10月23日)



新潟県環境賞授賞式(11月16日)

学生フォーミュラEVクラスで第2位

9月3日(火)から7日(土)に静岡県袋井市のエコパ(小笠山総合運動公園)で開催された、第11回学生フォーミュラ大会(主催:公益社団法人自動車技術会)で、機械制御システム工学科と情報電子工学科の4年次生5人が取り組んだ「新潟工科大学フォーミュラプロジェクト」が電気自動車クラスで総合第2位に、また電費(燃費)を競う省エネ賞でガソリンエンジン車クラスを含めて第1位となりました。



Honda エコマイレッジチャレンジに出場

自動車競技部8人が、10月5日(土)、6日(日)に栃木県茂木町で行われた、本田宗一郎杯 Honda エコマイレッジチャレンジ 2013 第33回 全国大会に出場しました。

1リットルのガソリンで何km走行できるかを競う競技で、これまでで最高の393km/Lを記録し、87チーム中26位と健闘しました。

また、同部は11月9日(土)に同会場で行われた「2013Ene-1GP」にも、長岡造形大学の学生との連合チームで出場しました。



エコマイレッジチャレンジ



Ene-1GP

ドイツ・マグデブルグ大学に学生を派遣

9月5日(木)から21日(土)まで、2人の学生がドイツのマグデブルグ・オットーフォンゲーリック大学で行われた海外研修に参加しました。

これは新潟大学が行っている「夏の学校」に本学の学生を参加させていただいたもので、研修中は英語、ドイツ語の講義のほか、ファルクス・ワーゲンやソーセージ工場など、現地の産業などを視察しました。

参加した学生は「英語でのコミュニケーションが多く、英語力を磨くことができた」、「ホームステイは日本では体験できないことばかりだった。ドイツには彫刻が多く、歴史や建築様式をたくさん学べた」と述べ、貴重な経験となりました。



現地の学生との交流

一方、9月11日(水)には、同大学の短期留学生5人が本学を視察し、交流を図りました。



医療・福祉工学研究室を見学する
マグデブルグ大学の学生

モンゴルから初の留学生入学

9月27日(金)に行われた、平成25年度秋季入学式では、留学生3人が3年次に編入学しました。留学生は学術交流協定を締結している、ハルビン理工大学(中国)1人とモンゴル科学技術大学2人で、このうちモンゴル科学技術大学からは、同大学と平成22年に学術交流に関する協定を締結して以来、初めての留学生となります。

子ども向け

青少年のための科学の祭典

工科大祭と同日開催され、計17の実験・体験ブースが設けられ、本学は情報電子工学科・佐藤栄一教授(写真中央)と環境科学科・小野寺正幸准教授の研究室が3ブースを出展しました。

このほか、11月16日(土)に2回目の柏崎刈羽大会が、2月1日(土)、2日(日)には長岡市のアオーレ長岡で新潟県大会が行われ、いずれも大勢の親子連れで賑わいました。



みんなの防災フェア

機械制御システム工学科のフィールドロボット工学研究室とロボット研究部が参加。『ロボカップジャパンオープン2013東京』に出場したレスキューロボットの操縦体験、3Dプリンタのデモンストレーションを行いました。操縦体験ではiPadを使用してレスキューロボットを操縦し、災害現場に見立てた迷路のゴールを目指しました。

(11月23日(土)、24日(日) ハイブ長岡)



一般市民向け

かしわざき市民大学

「なるほどiPS細胞! ~こんなにすごい細胞だった~」のテーマで4回にわたり開講。小野寺正幸准教授がiPS細胞の開発までの過程や夢のある活用方法などについて、分かりやすく説明しました。

(6月13日(木)~7月18日(木) 柏崎市市民プラザ)



連携講演会を開催

新潟県立図書館及び公益財団法人にいがた産業創造機構との連携により、「国内トップレベルの智慧に触れてみませんか ~県内大学の研究成果のご紹介~」の最終回として開講。佐藤栄一教授と建築学科・富永禎秀教授(写真左)が講演し、約50人が聴講しました。

(11月28日(木) 新潟県立図書館)



学校教員向け

先端科学技術体験講座(中学校理科)

新潟県立教育センターが大学と連携し、理科の先端的な科学技術に関する観察、実験、実習を通じ、その教材開発による指導力向上を目的としているもので、本学は平成20年度から中学校理科分野を担当しています。

(6月26日(水)、10月23日(水) 本学)

教員免許状更新講習

本学では平成23年度からの実施で、平成25年度は必修、選択合わせて20科目を開講。延べ383人が受講しました。

(10月27日(日)~12月1日(日) 本学)

技術者向け

柏崎ものづくり開発塾

平成24年度から、ものづくりにおける技術開発の基礎を学ぶ技術者育成講座として開始。技術解説や先進事例を学ぶ知識習得と、実際に設計・製作を行う試作実技で構成される6ヵ月程度のカリキュラムを、本学教員・技術職員等が担当しました。

平成25年度は平成26年1月7日(火)~2月18日(火)の間、「3D造形にトライ!」をテーマに、3次元CADデータ作成からの3Dプリンタ出力試技と3Dスキャナによるデータ取得実技の取組に27人が参加しました。

ものづくりマイスターカレッジ(長期研修)

柏崎市と柏崎商工会議所、地元工業界でつくる柏崎技術開発振興協会の基盤技術継承支援事業の一環。本学教員が講師に加わり、産官学で地元機械金属産業界の将来のものづくりを担う若手技術者の育成とレベルの向上を目指しています。

第8期となる平成25年度は、機械工学コースと検定受検コース(NC旋盤、NCフライス盤、機械系保全の3コース)並びに図面の見方コースが設けられ、合計22人が受講しました。

(9月4日(水)~平成26年7月23日(水) 柏崎市ものづくり活性化センター)

各種就職ガイダンス

卒業生の平均就職率が95%*を超える本学では、入学時から卒業までの間にさまざまなガイダンスを開催し、就職活動をサポートしています。主に3年次生が中心となりますが、学生はこれらの機会を活かしてキャリア意識を高めていきます。

*第一期卒業以降15年間の就職希望者に占める就職者の割合

◇就職ガイダンスの内容

就活準備・新聞活用(小論文のポイント)、自己分析、就活マナー、女子学生向け講座、内定者報告会、業界・企業研究、卒業生との懇談会、応募書類の書き方、就活サイト活用、面接対策、模擬面接

◇その他就活イベント

就職試験対策講座、公務員ガイダンス、就活イベントへのバス運行



内定者報告会(6月5日)



就活マナー講座(6月12日)



業界・企業研究(10月9日)



模擬面接(12月18日)

卒業生との懇談会

9月20日(金)の情報電子工学科を皮切りに、各学科で「卒業生との懇談会」を開催しました。社会人として働く意義や実際の仕事の状況等について卒業生と懇談し、今後の進路を考えることを目的に毎年開催しているもので、全学的な取組としては平成25年度で3回目となりました。

卒業生と内定を獲得した4年次生をパネリストとしたパネルディスカッションを実施した学科が多く、卒業生のなかには、すでに管理職として活躍している一期生の姿もありました。卒業生からは「語学力が必要となるので、英会話ができるようにしておくこと」、「企業は積極性のある人物を求めている。全てに対して能動的に行動することが大事」等のアドバイスがありました。



機械制御システム工学科(9月28日)



建築学科(10月26日)

企業技術・要素ガイダンス

低学年からの職業観育成と企業理解を深めることを目的とした「企業技術・要素ガイダンス」を11月13日(水)に学内で開催。製造業、建設業、情報通信業等の40社に参加していただきました。

本ガイダンスは全学年を対象に毎年開催しており、産学交流会など産業界との強いつながりを活かして開催できる、本学オンリーワンの取組です。学生は各ブースを訪問し、企業の技術者等から実際に製造された製品等を基にものづくりの仕組みや工程等を学び、企業の技術力の高さ・ものづくりへの情熱を肌で感じました。



合同会社説明会

平成27年3月卒業・修了予定の学生を対象とした「学内合同会社説明会」を平成26年2月13日(木)、14日(金)の両日、学内で開催しました。産学交流会会員企業や新潟県内企業をはじめ、北陸信越、東北、関東の各地から152社の企業に参加していただきました。

学生は、さまざまな業種の企業での事業内容や採用日程などを聴くことができ、貴重な機会となりました。



同窓会支部会が発足

新潟工科大学同窓会は、各地域に暮らす会員同士が連携と親睦を図ることを目的に、下越・東北支部、中越支部、上越・信州・北陸支部、広域支部の4つの支部会を設立しました。

これを受け、第1回目の支部会が11～12月にかけて各地域で開催され、同窓会事業を盛り上げていくとともに、開学20周年となる大学を支援していくことを確認しました。また会員からは、カリキュラムや人材育成方法について建設的な意見をいただきました。



中越支部会(11月9日)



上越・信州・北陸支部会の懇親会(11月30日)

原子力防災システム TiPEEZ

原子力耐震・構造研究センターでは、原子力施設の耐震・構造等の安全性に関する研究施設として、企業や官公庁などと連携しながら、研究成果の集積と国内外への発信及び人材の育成・輩出に取り組んでいます。

8月20日(火)には当センターにおいて、「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」の委員を対象に、本学などが柏崎刈羽地域の災害情報処理と避難計画を立案するために整備を進めているソフト、TiPEEZ(ティピーズ)のデモンストレーションを行いました。



TiPEEZ(原子力発電所周辺地域を考慮した津波・地震に対する原子力防災システム:Tsunami and Post Earthquake consideration in the External Zoneの略)は、大地震、津波、柏崎刈羽原発の放射性物質放出事故の複合災害を想定し、データベースと実際の被害状況、放射線量などの情報を組み合わせて計算・解析を行い、事故の進展状況、津波の到達時刻、浸水範囲などを予測しながら、道路や橋の損傷状況も加えて避難経路・輸送計画を提示します。

信濃川を活かした環境まちづくりフォーラム

NPO法人地域インフラ研究会と本学が共催した「水辺劇場都市にいがたフォーラムPart1 信濃川を活かした環境まちづくり」が10月19日(土)、新潟市中央区の新潟日報メディアシップで開催され、約50人が聴講しました。

信濃川を活用した街の魅力向上策等について、建築学科・富永禎秀教授の研究室がこれまでに実施してきた「街の体温測定」「都市温熱環境シミュレーション」の結果が、同教授と学生代表の永井裕也さんによって報告されました。また、「信濃川を活かした環境まちづくり～自然・人・暮らしをつなぐ～」と題したパネルディスカッションでは、富永教授と長聡子准教授がパネリストを務めました。



富永教授(左)、長准教授(中央)

柏崎に関する研究成果を発表

本学と新潟産業大学の学生による「柏崎に関する研究」発表会(主催:柏崎商工会議所総合建設部会、社団法人新潟県建設業協会柏崎支部)が2月27日(木)、柏崎商工会議所大研修室で行われ、両大学から12組19人の学生が日頃の研究成果を発表しました。12回目となるこの発表会では、大学と市民との関わりや授業の成果発表なども行われ、会場を訪れた120人の聴衆は、若者の斬新な提案に熱心に耳を傾けていました。



産学交流会も創立20周年

新潟工科大学産学交流会 【会員企業数241社】（平成26年2月末現在）

新潟工科大学産学交流会は、県内外の企業によって構成された本学の支援組織です。
平成2年9月、新潟県内の製造業経営者を中心に「新潟工科大学設立同盟会」が設立され、本学開学の推進力となりました。開学後は「新潟工科大学産学交流会」に組織変更し、職業実習（インターンシップ）、共同研究のほか、合同会社説明会、卒業生の就職においても本学を強力にバックアップしています。



会長 佐藤 功
佐藤食品工業株式会社
取締役会長



副会長 有沢 栄一
株式会社有沢製作所
特別顧問



副会長 吉岡 謙一
北越工業株式会社
代表取締役社長

技術シーズプレゼンテーションin長岡

12月10日（火）にまちなかキャンパス長岡において、企業や研究機関を対象とした「2013技術シーズプレゼンテーションin長岡」を本学と長岡技術科学大学、長岡工業高等専門学校との共催で開催し、「ものづくり」と「イノベーション」をテーマに12件の研究発表を行いました。

本学からは、「ものづくり企業が目指す医療機器と製造技術」（地域産学交流センター長 原利昭副学長）、「人体が作りだす抗菌物質」（環境科学科 斎藤英一教授）の2件を発表しました。



斎藤教授の発表

先進企業見学会

新潟工科大学地域産学交流センターでは10月10日（木）～11日（金）の2日間、先進企業見学会として大同特殊鋼株式会社（群馬県渋川市）及び三鷹光器株式会社（東京都三鷹市）を訪問しました。

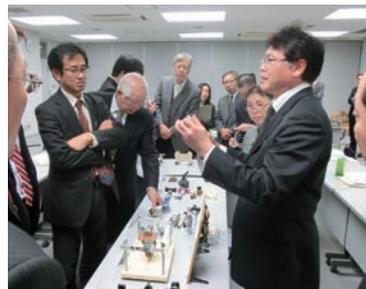
この見学会は、企業単独ではなかなか見ることができない他社の先進技術を大学が取り持つ企画で、今回は産学交流会会員企業から20人が参加しました。



三鷹光器(株)の視察風景
(10月11日)

地域別産学交流会

地域産学交流センターでは、産学交流会各地域の会員企業との懇談会を開催しています。懇談会では大学スタッフが各地域に出向き、大学と会員企業との情報交換や会員相互の交流促進、並びに大学への要望をお聞きすることを目的に毎年開催しています。



番外編

学食スペシャルメニュー

学生食堂では不定期に限定メニューや特定品目の割引を実施しています。ご期待ください。

